

写真コンテストの受賞者決まる 第1回秋艸道人賞「會津八一の歌を映す」

佐々木剛さん(東)に秋艸道人賞

昨年三月、會津八一の歌七首を課題にして募集を開始した第一回秋艸道人賞「會津八一の歌を映す」写真コンテストには北は北海道、

南は沖縄から応募が六十八点の応募がありました。審査会は本年一月二十日、新潟市のホテルオークラ新潟で開かれ、浅井慎平氏(審

査委員長)和泉久子氏、大橋一章氏、小川光三氏、神林恒道氏の五委員が出席して選考されました。この結果、秋艸道人賞には八一の歌「むさしののくさとばしむらさめのいやしくしくにくるあきかな」をテーマにした東京都世田谷区の佐々木剛さん(25)の作品「上野公園 不忍池」に決定しました。

佐々木さんには二月二日、新潟市の「だいしホール」で開かれた授賞式で、賞状、正賞(水煙の置物)、賞金十万

円が授与されました。また、冠付き奨励賞として早稲田大学會津八一記念博物館館長賞、新潟市長賞、胎内市長賞、BSN賞(放送局)、新潟日報社賞(新聞社)に輝いた五氏に賞状と賞金各三万円が授与されました。さらに審査員特別賞には賞状と八いゆかりの企業五社(お茶の浅川園、今成漬物店、菓子の大坂屋、菓子の里仙、高橋酒造)の五品が贈られました。

入選は十六点十五人でした。(會津八一記念館)



〔秋艸道人賞〕

佐々木剛(25) 東京都世田谷区
武蔵野の 草にとばしる 村雨の

いやしくしくに 暮るる秋かな

(撮影・上野公園 不忍池)



〔早稲田大学會津八一記念博物館賞〕

山口晴久(53) 大阪府池田市
水煙の 天つ乙女が 衣手の

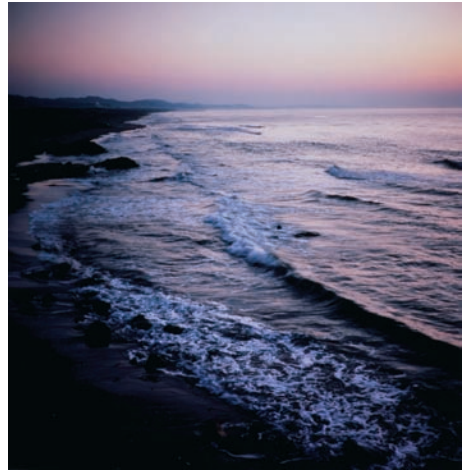
ひまにも澄める 秋の空かな

(撮影・薬師寺)



〔胎内市長賞〕

松林和生 (67) 〓 兵庫県神戸市
 ひそみ来て 誰が打つ鐘ぞ さ夜ふ
 けて ほとけも夢に 入り給うころ
 (撮影・月のさし入る浮御堂)



〔新潟市長賞〕

丹羽明仁 (50) = 愛知県小牧市
 都辺を のがれ来たれば ねもごろに
 潮打ち寄する ふるさとの浜
 (撮影・寺泊海岸)



〔BSN賞〕

原奈緒子 (23) = 東京都練馬区
 都辺を のがれ来たれば ねもごろに
 潮うち寄する ふるさとの浜
 (撮影・夕暮れ、穏やかな日本海)



〔新潟日報社賞〕

小野吉行 = 兵庫県神戸市
 水煙の 天つ乙女が 衣手の ひまに
 も澄める 秋の空かな
 (撮影・薬師寺 水煙の塑像 コスモ
 ス畑)



〔審査員特別賞〕
 捧 賢一 (74)

〓 新潟市南区

春来ぬと 今か諸人 ゆきかえり ほと
 けの庭に 花咲くらしも

(撮影・長谷寺)

(審査委員の講評は次ページに)

第1回秋艸道人賞
写真コンテスト

審査委員の講評

▼浅井慎平委員長

(写真家、大阪芸術大学大学院教授)

秋艸道人會津八一の世界をこのころの底まで理解することは難しい。まして、映像に表現することは大変だ。

ここに集まった数々の写真作品はそれに向って撮されたことに深い感慨があった。思いもかけない出来映えのものの多さに感動し、このコンクールの可能性を強く感じた。

この機会に秋艸道人のうたを写真に移し考える作業で、写真家た

ちは秋艸道人のころの深くに触れることができる。優れたうたのころと秋艸道人の人格が写真を撮る作者たちの身の内に生れたであろうことを喜びたい。
人のいのちのうたの永遠を願いながら。

▼和泉久子委員

(鶴見大学名誉教授)

時間の芸術であり、しかも俳句よりは、はるかに心理表出の形式である短歌が、このたび写真により、造形化された。八一短歌の新しい鑑賞方法である。

入賞、入選作品はいずれも見事なものであるが、伝統的な手法から軽みを持つ象徴的なものまで、いく通りもの手法のものが収められた。短歌写真の可能性を秘めた最初の成果とみたい。八一ファン

を喜ばせるに違いない。ちなみに、一位入選の作品に触れれば、「武蔵野」の歌にこめられた終末観が、何がしか象徴的に表現された好作品である。

▼大橋一章委員

(早稲田大学教授、早稲田大学會津八一記念博物館館長)

第一回の秋艸道人賞写真コンテストに六十八点の作品応募があったことは、大変嬉しく思っております。會津八一の歌をテーマにすれば無限のイメージが湧くのではないかとの想いは、応募作品を見ると、そうもいかないのだと思ひ知りました。會津八一の歌に限定することは難しいものです。しかし奈良の風光を多くの方が撮影していて、小生としては満足でした。

▼小川光三委員

(仏像美術写真家、奈良・飛鳥園社長)

格調高い會津八一の歌を映像で表現するのはむずかしいことであるが、それぞれの歌への想いを語った作品が、思いのほか多く集まったことは素晴らしい。特に最高賞の作品は、写真ならではの詩が語られて美しい。

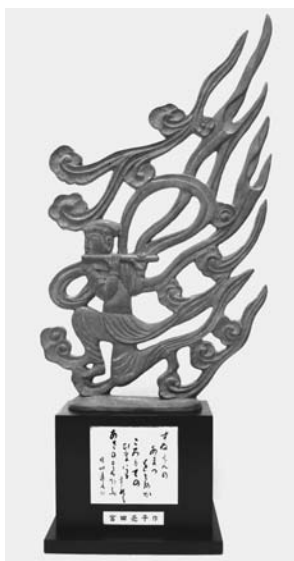
その他にも優れた作品の多くに接することが出来たが、多く人々の心にふれる會津の歌への想いに接することの出来た審査会であった。

▼神林恒道委員

(會津八一記念館館長、立命館大学大学院教授)

八一の歌の単なるイメージ的な説明や補足ではなく、歌によって喚起された、カメラマンの心象風景的な作品に興味深いものが何点もあった。これが今後のコンテストのひとつの方向づけとなるであろう。

秋艸道人賞と早稲田大学會津八一記念博物館長賞の二作品は、アイデアもさることながら写真ならではの表現において群を抜いた、技術的にも優れたものとして評価できる。



秋艸道人賞の正賞「天つ乙女」像の原像

(宮田亮平東京藝術大学長作)



写真コンテストの審査風景